(2) 水質

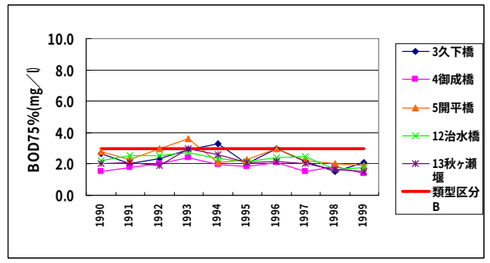
荒川の水質は、BOD75%値で見る限り、各地点で概ね環境基準以下となっている。特に秋ケ瀬堰までの中流部では近年安定して低くなっている。

太郎右衛門自然再生周辺の本川水質は、上流の御成橋及び下流の開平橋の BOD（75%値）の平均は 2～3mg/ｌの範囲であり、また、近年低下する傾向にある。

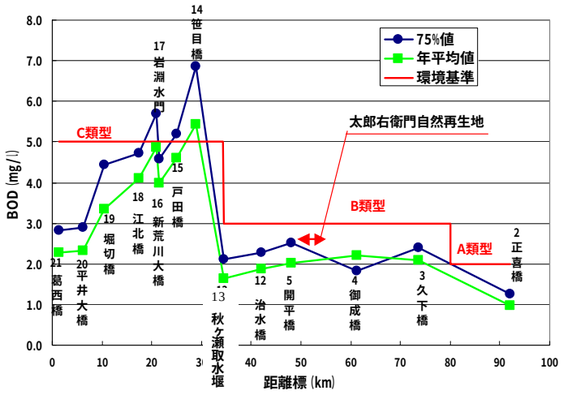
太郎右衛門自然再生地周辺では、流水の有機汚濁を示すＢＯＤでは、市野川が平均 5.6 ｍｇ/ｌと高く、止水の有機汚濁を示すＣＯＤでは下池が最も高くなっている。また富栄養化の原因となる栄養塩類では、生活雑排水等が流入する市野川が総窒素及び総リンともに高い値となっている。

荒川水系公共用水水質調査地点

番号	地点名	河川
1	二瀬ダム（湖心）	荒川
2	正喜橋	荒川
3	久下橋	荒川
4	御成橋	荒川
5	開平橋	荒川
6	高麗川大橋	高麗川
7	東松山橋	都幾川
8	落合橋(越)	越辺川
9	とげ橋	小畔川
10	落合橋(入間)	入間川
11	入間大橋	入間川
12	治水橋	荒川
13	秋ヶ瀬取水堰	荒川
14	笹目橋	荒川
15	戸田橋	荒川
16	新荒川大橋	荒川
17	岩渕水門	荒川
18	江北橋	隅田川
19	堀切橋	荒川
20	平井大橋	荒川
21	葛西橋	荒川
22	不老橋	不老川



荒川本川水質調査地点の水質の推移



荒川本川水質縦断図（1990～1999 年平均）

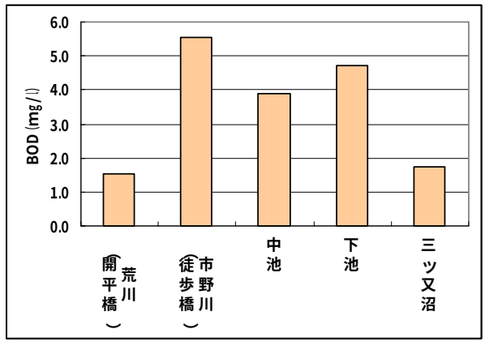
※BOD の環境基準値には平均値を用いられるが、平均値には異常値を含むことも多い。そのため、河川 BOD 値の評価には異常値を除く目的で 75%値が用いられる。

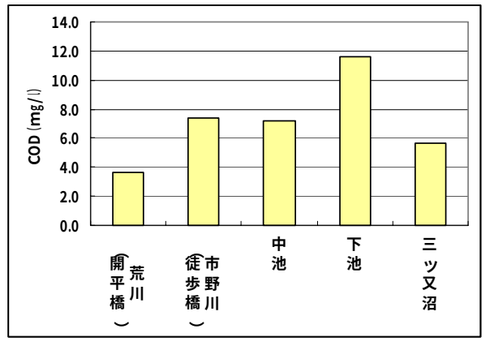
河川環境基準（類型別基準）

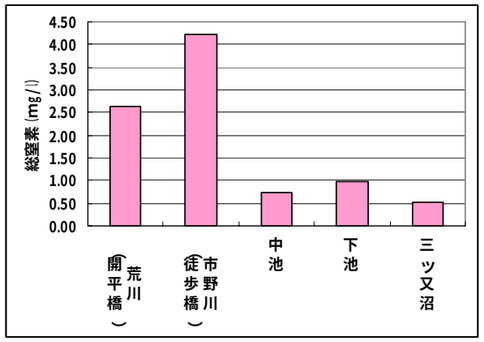
項目	基準値				
類型	水素イオン濃度（pH）	生物化学的酸素要求量（BOD）	浮遊物質量（SS）	溶存酸素量（DO）	大腸菌群数
AA	6.5以上 8.5以下	1mg/l 以下	25mg/l 以下	7.5mg/l 以上	50MPN/100ml 以下
A	6.5以上 8.5以下	2mg/l 以下	25mg/l 以下	7.5mg/l 以上	1,000MPN/100ml 以下
B	6.6以上 8.5以下	3mg/l 以下	25mg/l 以下	5mg/l 以上	5,000MPN/100ml
C	6.5以上 8.5以下	5mg/l 以下	50mg/l 以下	5mg/l 以上	－
D	6.0以上 8.5以下	8mg/l 以下	100mg/l 以下	2mg/l 以上	－
E	6.0以上 8.5以下	10mg/l 以下	ごみ等の浮遊が認	2mg/l 以上	－

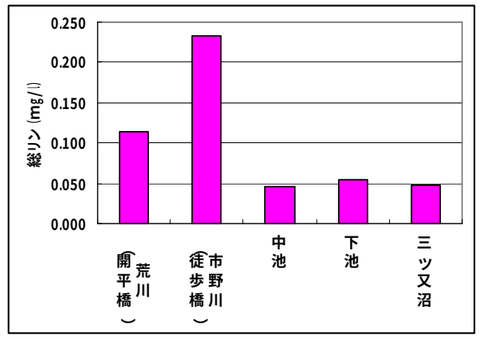
BOD（生物化学的酸素要求量）：溶存酸素（DO）が十分ある中で、水中の有機物が好気性微生物により分解されるときに消費される酸素の量のことをいい、普通 20℃で 5 日間暗所で培養したときの消費量を指す。BOD が高いと DO が欠乏しやすくなり、BOD が 10mg/ｌ以上になると悪臭の発生などが起こりやすくなる。

COD（化学的酸素要求量）：水中の有機物などを酸化剤で酸化するときに消費される酸化剤の量を酸素の量に換算したもの。COD は河川には環境基準値がなく、湖沼、海域には定められている。









太郎右衛門自然再生地周辺水質

※　本川：平成 12 年度平均（開平橋）　市野川（徒歩橋）：平成 12～平成 13 年度
旧流路：平成 15 年 5 月、8 月、11 月
なお、下池 8 月データは雷雨による濁水のため、異常値として除外している。

荒川流域河川の類型指定状況